

いえのいえのいえ

4人家族のための住宅

わたし 家族 友達 恋人 隣人
身近な存在から遠く存在まで
私と他者との関係を紡ぐいえを考えました

両者の関係をゆるやかに繋ぐために
このいえは半透明の素材で覆われた
入れ子の構造を持っています

1階は住人の私的な生活空間でありながら
積極的に街に開くこともできます
料理研究者である住人は
庭に開かれた1階のキッチンで
定期的に料理教室を行います
晴れた日は窓を開けて
家の中がテラスようになります

1階、2階の柱間にある壁は、
全て閉鎖することができます
また、開く角度によって
風の向きをかえることもできます

被膜された入れ子の回廊は
夏は風を通し
冬は太陽の光をたっぷり貯める
木々に囲まれながら木漏れ日を浴びたり
壁を開いてザーザー降りる雨音に
耳を澄ますためことだってできます

900ピッチで均等に切り取られた風景は
移ろいゆく街の情景を捉えます

屋根の軒の出は
夏至の太陽の角度に合わせてせりだし
1階を明るく照らしながらも
夏の暑さをさげぎります

建具を纏った建築は
暑い日は、素っ裸になって
内部が剥き出しになりながらも開放的に
寒い日は、二重の被膜に包まれて、まるで
洋服を着るように重ね着をします

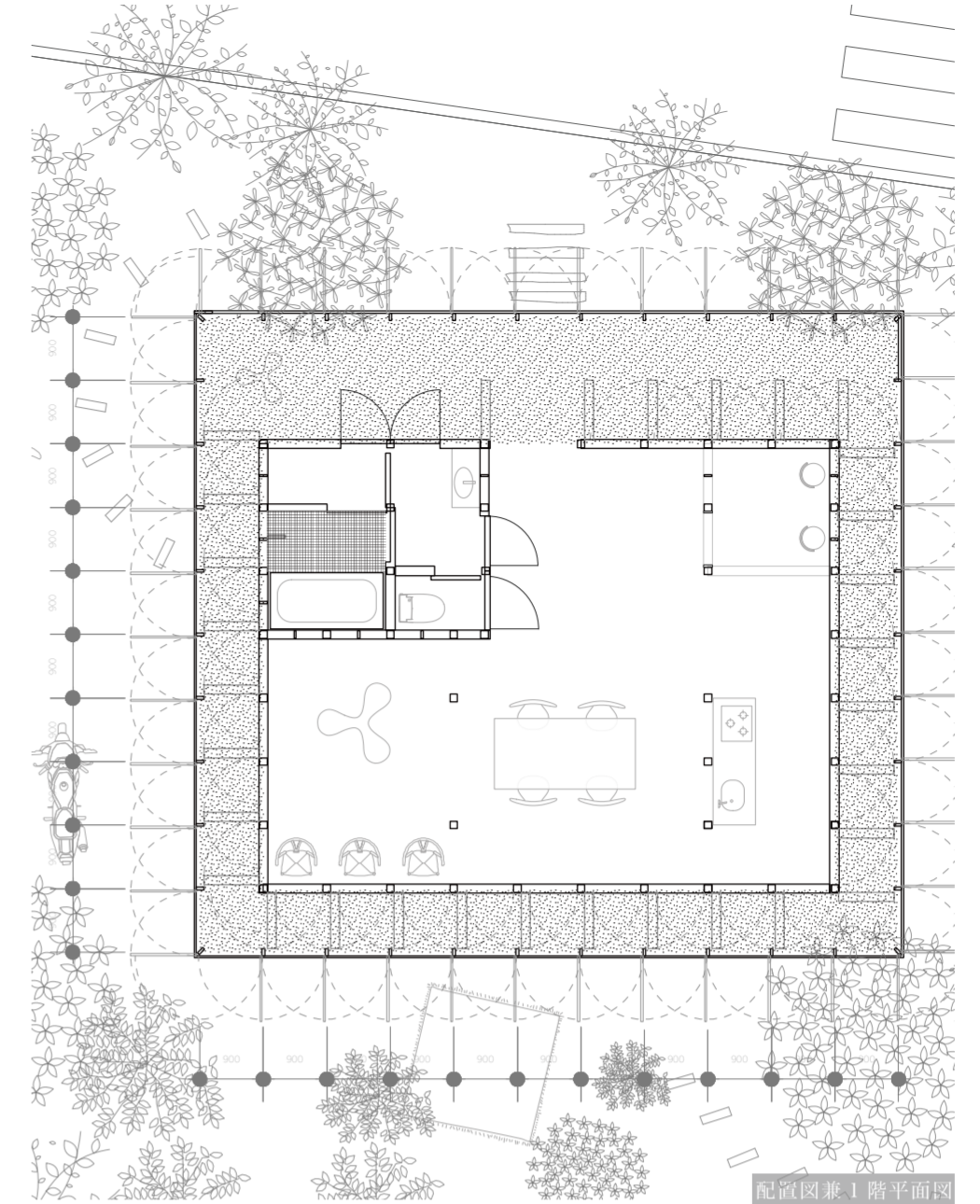
街に暮らす私たちが
森のもつ霧のような不安定な状態が
もたらす経験の豊かさを享受すること

森を作るのではなく
森に住むのでもなく
人間が住む街の中で
暮らすことの幸せを再認識すること

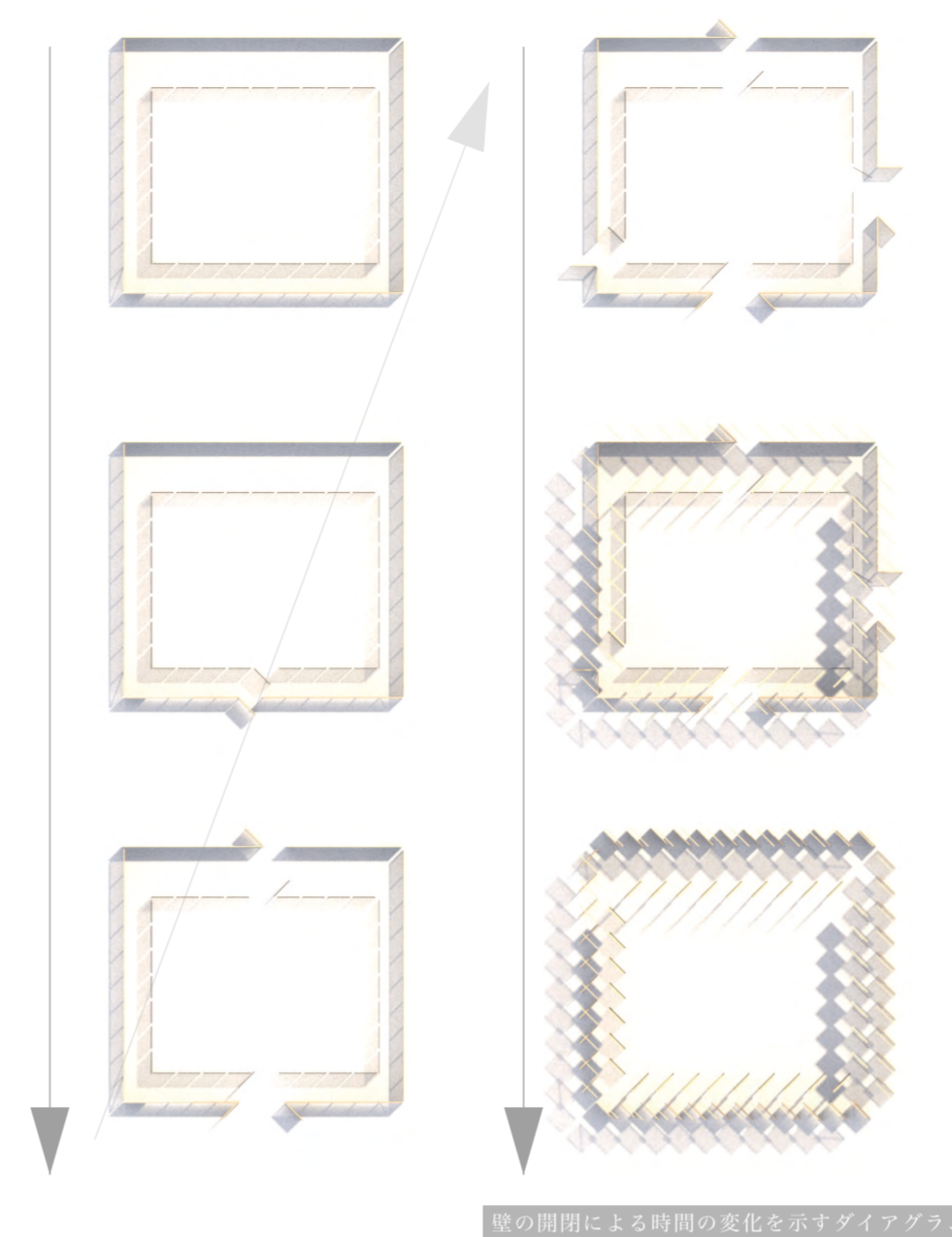
森のように、生の営みや太陽の動き、
地球上のあらゆる環境と呼応しながら
変化し続ける 時間を内包した いえ

風に揺れる森の木々のように
素材が動き続ける いえ

これが私の考える森と暮らす家



配置図兼1階平面図



壁の開閉による時間の変化を示すダイアグラム



建物外観 外部の環境を緩やかに引き込む、森のようなおらかな空間



回廊の様子、外部でも内部でもあり、またそのどちらでも定義できない空間



南方の庭から見る風景、状況に合わせて境界を作り出すことができる



模型写真 住人の生活風景